ラドロフ氏は[22]「回鶻文字が何時出來たかについては證據の存するものは無い。けれども吐魯番の發掘物が示す如く、八世紀の後半に於て既に書籍用の文字として使用せられて居る。又カシュガルでラヴロヴ（Lavrov）氏の購うた貨幣に支那風の銅貨があつて、其の一面には回鶻文字で[23] Türgäs xaγan bir käsi 卽ち ein Käsch des Türgäsch Kaghan と記してある。それで此の貨幣は明に八世紀の初半に鑄造されたもので、これまた當時東トルキスタンの北方で此の文字が公用文字として用ひられたるを示すものである」と述べた、吐魯番發掘の文書に八世紀の後半の日附を有するものゝ有無は、自分の知識では保證しかねるが Türgisch 卽ち突騎施の貨幣に回鶻字を記せる事實であつて、これは既にミュラー氏も一九一一年に解說した。[24] 自分は明治四十五年初めて京都で羅振玉氏の所藏の此の貨幣を見、其の後露西亞ペテログラードのエルミタージュ博物館所藏のものについて模型を作り、更に近頃同種のもの三四を見たが、文字は全く回鶻文字と稱せらるゝものである。錢文一部の讀み方については兩氏の考の何れにも一致することは出來ないが、然も Türgish Kaghan といふ文字は明かで一點の疑も無い。從つてラドロフ氏の考の通り、之が突騎施可汗の鑄造した貨幣なることは明白の事實である。さて兩唐書に據ると、突騎施は西突厥の別部で、部長烏質勒といふものが西突厥の滅後代つて其の地を占め、碎葉城卽ち今のトクマク（Tokmak）附近を中心として伊犂の谷間から、東は北突厥に、西はソグディアナ地方に、東南は高昌及び庭州卽ち濟木薩地方を領したものである。烏質勒の勢の盛になつたのは聖曆二・三年頃（699—700）からの事[25]である。其の死後內爭があつたが葛邏祿が勢を得て、至德大曆の頃、碎葉川地方に據り、突騎施を臣屬せしめたまで、卽ち七百六七十年頃迄は、突騎施の勢力を有した時代であるから、此の貨幣もまた此の間、卽ち七百年より七百六十年頃迄の間の鑄造に係ると